

尼崎地域地震津波被害の記録

平成23年5月

尼崎市立地域研究史料館

解 題

本「記録」は、次の書籍に収録されている歴史資料から、尼崎地域に被害をもたらした地震・津波記録を中心に地域研究史料館が作成したものである。

- * 『新収日本地震史料』東京大学地震研究所編、1981年～1994年、同研究所・日本電気協会刊
第1巻～第5巻 15冊、続補遺2冊
- * 『日本の歴史地震史料 拾遺』宇佐美龍夫編、1998年～2008年、宇佐美龍夫・日本電気協会刊
6冊
- * 『わが国の歴史地震被害一覧表』宇佐美龍夫編、1994年、日本電気協会刊
- * 『兵庫県地震災害史 ―古地震から阪神・淡路大震災まで―』寺脇弘光著、
1999年、神戸新聞総合出版センター刊

- ☆ 「地震番号」は、宇佐美龍夫著『新編日本地震被害総覧』（1996年、東京大学出版会発行）に付された番号。
- ☆ 西暦表示は、『日本暦日原典』（内田正男編著、昭和50年、雄山閣出版発行）により、1581年まではユリウス暦、1582年以降はグレゴリオ暦で換算している。
なお、『わが国の歴史地震被害一覧表』では、1581年以前についてもグレゴリオ暦により換算されている。
- ☆ 地震規模（M・マグニチュード）は、『わが国の歴史地震被害一覧表』による。
- ☆ 濃尾地震についての「照会調査書写」は、小野寺逸也「濃尾地震と尼崎」（『地域史研究』16-3、昭和62年3月）に紹介されたもの。
- ☆ 被害全体の概要は、WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」に掲載されている地震に限り転載した。

平成23年（2011）5月30日 尼崎市立地域研究史料館

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
007	天平 6/4/7	734/05/14	畿内七道諸 国(近畿地 方・全国各 地) M:不明			○倒壊家屋で圧死多く、山崩れ、川塞ぎ、地割れが無数に生じた(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
— 参考	天平勝 宝5/9/5	753/10/05	大阪湾	海水が暴溢して摂津国御津村(大阪市域)で人家・百姓多数漂流(『続日本紀』)	この年地震被害記録なく、『続日本紀』に「御津村南風大吹。潮水暴溢。」と記すので、高潮と推定される	
—	貞観 10/7/8	868/08/03	播磨・山城 M≥7		推定震度:摂津・但馬・淡路5弱～4強(『兵庫県地震災害史』)	播磨諸郡の官舎、諸定額寺の堂塔悉く倒れた。京都では垣や家屋が崩れたり破損した(『兵庫県地震災害史』)
026	仁和 3/7/30	887/08/22	五畿七道 M=8.25	五畿七道に大地震、摂津国では津波による死者多数(『三代実録』)		○京都で家屋の倒壊多く、圧死者多数。津波が沿岸を襲い溺死者多数、特に摂津で津波の被害が大きかった。南海トラフ沿いの巨大地震と思われる(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
038	嘉保 3/11/24	1096/12/11	畿内・東海 M=8.25			○薬師寺の回廊が倒壊し、東寺、法成寺、法勝寺で塔などが破損。近江勢多橋が落ちた。駿河で地震強く、津波で社寺家屋400戸余り流出。伊勢阿乃津で津波の被害。東海沖の巨大地震と見られる(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
039	承德 3/1/24	1099/02/16	近畿・四国 M=8.15			○興福寺大門、回廊が倒壊し、塔が破損し、西金堂が小破。摂津天王寺に被害。土佐で田千余町(約10km)が海に沈む。南海道沖の巨大地震と見られる(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
056	正平 16/6/24	1361/07/26	畿内・土佐・ 阿波 M=8.375			「六月十八日ノ比ヨリ毎日五七度ニ至リ大地震畿内近国遠国ニ至ルマデ山崩レ堂塔倒レ傾キ損ズ、(中略)下旬ノ比(24日)阿波ノ国ノ高ノ湊ト云所高塩俄ニシテ在家数千軒海ニ沈ミ男女数万人死スト云々」(『紀州変異災害誌』) ○摂津四天王寺の金堂倒壊し、圧死者5人。その他、諸寺諸堂に被害が多かった。津波で摂津・阿波・土佐に被害、特に阿波の雪(由岐)湊で流出家屋1700戸、溺死者60余人。余震多数。南海トラフ沿いの巨大地震と思われる(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
— 参考	康安1 (正平 16)7/24	1361/08/25		難波浦で津波が起こり、数百人の海人が溺死(『日本古典文学大系 太平記』)	(7/24発生の記録なし。史実としては上記6/24のことか)	
—	応永 19/11/1 4	1412/12/17	播磨 M≤6.5		推定震度:摂津・但馬・淡路南部4～3強(『兵庫県地震災害史』)	播州米田(高砂市域)の東西十里ばかり神社建造物・仏教寺院・人家が破損、倒壊(『兵庫県地震災害史』)
— 参考	文明 7/8/6	1475/09/06		大風と津波が襲い、海士崎で多数の家と1,000人余の人が波にさらわれた(『鎌倉大日記』『異本塔寺長帳』)	この年地震被害記録なく、「大風」と同時なので高潮と推定される	

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
082	文禄5/ 閏7/13	1596/09/05	山城・摂津・ 和泉 M=7.5		推定震度：神戸・阪神間7～6強(『兵庫 県地震災害史』) 尼崎市田能高田遺跡に地震痕跡(噴 砂)(『兵庫県埋蔵文化財調査報告』 第166冊) 「堺とは反対の海を隔てて五里(レグ ワ)離れた所にある尼崎の市(まち) は無視できない。そこには壮大で美 麗な仏僧たちの僧坊があったが、 人々の噂によればまったく倒壊した とのことである」(『イエズス会日本報 告集』)	通称：伏見桃山大地震 ○夜半に近畿地方に大地震が発生。京都では三 条より伏見の間で被害が最も多く、伏見城天守大 破、石垣崩れて死者570余人。諸寺・家屋の倒壊 も多く、死傷多数。堺で死者600余人。奈良・大阪・ 神戸でも被害が多かった。余震が翌年4月まで続 いた(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災 害一覧」)。
084	慶長 9/12/16	1605/02/03	東海・南海・ 西海諸道 M=7.9			○地震の被害としては淡路島安坂村千光寺の諸 堂倒れ、仏像が飛散したとあるのみ。 ○津波が犬吠崎から九州までの太平洋岸に來襲 して、八丈島で死者57人、浜名湖近くの橋本で100 戸中80戸流され、死者多数。紀伊西岸広村で 1700戸中700戸流失、阿波宍喰で波高2丈、死者 1500余人、土佐甲ノ浦で死者350余人、崎浜で死 者50余人、室戸岬付近で死者400余人など(『わが 国の歴史地震被害一覧表』73p、WEB版・内閣府 防災情報ページ「過去の災害一覧」)
115	寛文 2/5/1	1662/06/16	畿内・丹後・ 若狭・美濃・ 伊賀・伊勢・ 駿河・三河 M=7.425	西日本一帯に大地震がお こり、尼崎城の天守が傾き 多門櫓・石垣などが破損し た。東武庫村が全焼した (『慶安元禄間記』、高寺功 氏文書60)	尼崎城「天守損・侍屋敷大分損」「総 曲輪外所々大破」「櫓・多聞石垣堀 悉崩」大破」「城大分破損」(『浮藻日 記』『元延実録』『殿中日記・雑書』 『万治寛文年間記』『わが国の歴史 地震被害一覧表』p85)『』	「京大坂大地震。御所を始め町家大損。死人五百 余。豊国の御廟崩。五条の石橋落候由」(『四日市 村年代記』 「上方大地震。日月如紅」(『熊野年代記』)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
— 参考	寛文 10/8/23	1670/10/06		津波のために道意新田の建家が残らず流失し、南と東の堤も崩れた(橋本治左衛門氏文書「太布脇新田開発記」『尼崎市史』5所収)	この年地震被害記録なく、「大風」の記録により高潮と推定される。「暴風、自撰大坂至明石、大風雨高潮」(『山鹿素行先生日記』東洋図書刊行会)、「大風吹西海より逆浪起りて難波の近郷にあふれ」(『摂陽奇観』)	
153	宝永 4/10/4	1707/10/28	畿内・東海・南海・東山・西海諸道 M=8.4	大地震のために尼崎城の天守・矢倉などが破損し、人家15軒が倒れた(『新収日本地震史料』3巻別巻)長遠寺では本堂の軒廻りおよび間斗束斗拱[けんとづかときょう]廻りを改変するなどの修理を施している。同寺客殿は倒壊した(長遠寺棟札)	尼崎城天守・櫓・多間・蔵・長屋・堀・石垣所々破損、城下161軒潰れ、ほか大破多し、寺社11大破、死者9(『樂只堂年録』より要約)「尼ヶ崎ノ城破損」(河内屋年代記)	○わが国最大級の地震の一つ。全体で少なくとも死者2万人、倒壊家屋6万戸、流出家屋2万戸 ○震害は東海道・伊勢湾・紀伊半島で最もひどかった。 ○津波が紀伊半島(相模湾からとの記述もある)から九州までの太平洋沿岸や瀬戸内海を襲った。津波の被害は土佐が最大。津波で1万1千戸が流出した ○室戸・串本・御前崎で1~2m隆起し、高知市の東隣の地約20平方kmが最大2m沈下した ○遠州灘沖および紀伊半島沖で二つの巨大地震が同時に起こったとも考えられる (WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
—	正徳 1/9/18	1711/10/29	近畿 M:不明			○京都・大坂・奈良・名古屋・伊賀で地震 ○大坂で「天水茂翻り候程之地震」(『参向大坂京都御在留中毎日記』)
163 参考	享保 3/7/26	1718/08/22	信濃・三河 M=7.0			○伊那遠山谷で山崩れ、せき止められた遠山川が後に決壊し、死者50余人。飯田長久寺の唐門が倒れた。日光・尾張・江戸でも揺れを感じた。 (WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
—	文化 15/4/19 ・文政 1/4/30	1818/05/23・ 06/03	播磨 M≒6.0		推定震度:震央・安富町5強、その他4以下(『兵庫県地震災害史』)	宍粟郡安富町から山崎町の農作物に被害(『兵庫県地震災害史』)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
229	文政 2/6/12	1819/08/02	近江・美濃・ 伊勢・伊賀・ 尾張・畿内 ほか M=7.25		「未五刻大地震(中略)尼ヶ崎二而ハ 釣鐘震鳴」(池田市「稲束家日記」)	「大志しんゆり」(高槻市役所蔵・谷耕治家文書) ○近江八幡で倒壊家屋82、死者5。木曾川下流で は香取(多度町)で40全滅、金廻では海寿寺が倒 壊し死者70。名古屋・犬山・四日市・京都などのほ か、金沢・敦賀・出石・大和郡山などでも被害(WE B版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
236	文政 13/7/2	1830/08/19	京都・山城・ 畿内一部 M=6.5		西宮・尼崎「少損」(『日本地震史料』 『わが国の地震被害一覧表』)	○洛中洛外の土蔵はほとんど被害を受けたが、 家屋の倒壊はほとんどなかった。御所・二条城な どで被害。京都での死者280人。上下動が強く、余 震が非常に多かった(WEB版・内閣府防災情報 ページ「過去の災害一覧」)
254	嘉永 7/6/15	1854/07/09	伊賀・近江・ 大和ほか M=7.25		尼崎・西宮・佃島「すこしふるひ候よ し」(『嘉永六年地震記』『大阪編年 史』)	○12日頃から前震があった。上野付近で倒壊家 屋2千余戸、死者約600人、奈良で倒壊家屋400戸 以上、死者300余人など、全体で死者は1500人を 越える。上野の北方で西南西―東北東方向の断 層を生じ、南側の1kmの地域が最大1.5m相対的に 沈下した。木津川断層の活動であろう(WEB版・ 内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
257	嘉永 7/11/4	1854/12/23	太平洋沿岸 各地 M=8.4	大地震のため尼崎城下で町家約30軒が全壊、約100軒が大破し、城の御殿・櫓なども破損した。翌5日大地震で約200軒全壊、大破は数知れず、津浪で町家が流失し戒橋・渡し船などが破損(築地本町二丁目会文書) 未新田・基新田の地面が沈み、困堤までが流失して多くの場所で耕作できなくなった(岡本俊二氏文書)	推定震度:尼崎付近6強~6弱、推定津波高さ:尼崎2.5~3.0m(『兵庫県地震災害史』) 「尼ヶさき 十一月四日朝五ツ半時より大地震トなり、つき地凡家数二百けん余りくづれ、辰巳のわたし南詰宿屋茶見せ共残らずくづる、市中凡三百軒余り崩、内川八尺余りの高水トなる、五日夜まで三十五、六度のゆり、死人数凡百人余、けが人数知ず、失人数有之由、誠二哀至極目も当られぬ次第也 六日の朝迄三十二度、ゆり一尺二寸」ほか「丹波園部・大坂つなみ・奈良・大坂大地しん記事」(地域研究史料館蔵「聞書諸国并二大坂大地震津波」瓦版) 「尼ヶ崎辺・瀧(灘)目・兵庫大損し其上大津波」(東根市史編集資料) 「一、尼ヶ崎式百軒斗地震二而崩れ焼る」(『富田林市仲村家年中録』)	「大阪其余の国も船に乗込出死人夥敷よし…」(徳島県海南町・浅川千光寺扁額) ○被害は関東から近畿に及び、特に沼津から伊勢湾にかけての海岸がひどかった。津波が房総から土佐までの沿岸を襲い、被害をさらに大きくした。この地震による家屋の倒壊・焼失は約3万戸、死者は2千~3千人と思われる。沿岸では著しい地殻変動が認められた。地殻変動や津波の解析から、震源域が駿河湾深くまで入り込んでいた可能性が指摘されている。 ○[経済社会]被害(紀州領):荒廃した田畑:168000石、土蔵焼失:264 (WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
261-3	安政 2/9/28	1855/11/07	山城・近江・伊勢・尾張・三河・遠江 M=7.25			○前年の東海地震の最大余震。掛塚・下前野・袋井・掛川辺がひどく、ほとんど全滅。死者があった。津波も発生した(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」) 「大坂・山城・近江・伊勢・尾張・三河・遠江其外共大地震也」(草津市・長束時二郎家文書)
262 参考	安政 2/10/2	1855/11/11	江戸方面 M=6.9			池田「西刻地震」(池田市史/5巻) ○江戸湾荒川河口付近が震源。深川、本所、下谷、浅草等で激しい被害。武家を除いた死者は3895人(武家を含めると約7千人)、倒壊家屋は14346戸(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
— 参考	明治 2/2/28	1869/04/09	六甲 M:不明			「地震の為六甲山東手に、地所凡三尺斗り響き割れ、長さ凡二十町斗に及ぶ。其深さ不明」(『西灘村誌』)
282 参考	明治 5/2/6	1872/03/14	石見・出雲 M=7.1			「地震」枚方(中振村役人日記) 浜田地震○1週間ほど前から鳴動、当日には前震もあった。全体で倒壊家屋5千戸、死者552人。特に石見東部で被害が多かった。海岸沿いに数尺の隆起・沈降がみられ、小津波があった(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)。
300	明治 24/10/28	1891/10/28	愛知県・岐阜県 M=8.0	濃尾大地震のため、尼崎町・大庄村・小田村で濠・溜池・井戸の水面に1尺から4尺の波動観測、海岸部畑の隆起・沈降、地割れが発生(東大地震研究所所蔵「照会調査書写」)	推定震度:尼崎の一部6弱、尼崎のその他地区5強(『兵庫県地震災害史』) 「此地(西宮)ハ幸ニ甚ダシカラズ、庭ノ燈籠ノ臥レタルモノ三四軒、家屋損傷アレトモ全戸倒レタル事ハナシ、尼崎地方ハ少シ当地ヨリハ甚シク」(西宮神社「社務日記」) 「尼ヶ崎 家屋の崩壊九戸、納屋同七棟、土蔵同四棟、雪隠同二個、家屋の半壊四十一、土蔵同四、納屋同五、その他小破損、数を知らず。実に驚くべき惨況を演ぜり」(『神戸又新日報』明治24.10.30)	○仙台以南の全国で地震を感じた。わが国の内陸地震としては最大のもの(M8.0)。全壊建物14万余戸、半壊8万余戸、死者7273人、山崩れが多数発生。根尾谷を通る大断層を生じ、水鳥で上下に6m、水平に2mずれた。1892年1月3日、9月7日、94年1月10日の余震でも家屋破損などの被害があった。 ・震源にあたる根尾谷では大きな断層崖が現われた。 (WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
331 参考	明治 32/3/7	1899/03/07	紀和地震 M=7.0			「永き地震」池田市綾羽(稲束家日記) ○奈良県吉野郡・三重県南牟婁郡で被害が大きく、木ノ本・尾鷲で死者7、全壊35、山崩れ無数。大阪・奈良で煉瓦煙突の破損が多かった(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
376 参考	明治 42/8/14	1909/08/14	江濃(姉川)地震 M=6.8			「地震強震」池田市綾羽(稲束家日記) ○虎姫付近で被害が最大。滋賀・岐阜両県で死者41人、全壊家屋978戸。姉川河口の湖底が数十m陥没した(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
411	大正 5/11/26	1916/11/26	神戸・明石・ 淡路 M=6.1			淡路島北部から明石郡・神戸市5強～弱(『兵庫県地震災害史』) ○神戸・明石・淡路島北部で倒壊家屋3戸、半壊家屋数十戸。山崩れ1箇所(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
430 参考	大正 12/9/1	1923/09/01	関東南部 M=7.9		推定震度:丹波・摂津・淡路4(『兵庫県地震災害史』)	関東大震災 ○東京で観測した最大振幅は14～20cm。地震後火災が発生し被害を大きくした。全体で死者・不明者14万2千余、全・半壊家屋25万4千余戸、焼失44万7千余戸。山崩れ・崖崩れが多数発生。房総方面・神奈川南部は隆起し、東京付近以西・神奈川北方は沈下した。相模湾の海底は小田原―布良線以北は隆起、南は沈下した。関東沿岸に津波が襲来し、波高は熱海で12m、相浜で9.3mなど(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
438	大正 14/5/23	1925/05/23	但馬北部 M=6.8		推定震度:但馬以外の兵庫県内5弱～4(『兵庫県地震災害史』)	北但馬地震。円山川流域被害多く、死者428、家屋全壊1,295、焼失2,180(『兵庫県地震災害史』)
445	昭和 2/3/7	1927/03/07	京都府北西部 M=7.3		推定震度:摂津海岸部5強(『兵庫県地震災害史』) 「尼崎地方の被害:死者0、負傷者15、住家全壊1・半壊1・破損6、非住家全壊7・半壊1・破損12(『奥丹後震災救援誌』)	北丹後地震 ○被害は丹後半島の頸部が最も激しく、淡路・福井・岡山・米子・徳島・三重・香川・大阪に及ぶ。全体で死者2925人、全壊家屋12584戸。郷村断層(長さ18km、水平ずれ最大2.7m)とそれに直交する山田断層(長さ7km)を生じた。測量により、地震に伴った地殻の変形が明らかになった(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西 暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
503 参考	昭和 18/9/10	1943/09/10	鳥取付近 M=7.2		推定震度：県内播磨東部・摂津各地 4(『兵庫県地震災害史』)	鳥取地震 ○鳥取市を中心に被害が大きく、死者1083人、全壊家屋7485戸、半壊6158戸。鹿野断層(長さ8km)、吉岡断層(長さ4.5km)を生じた。地割れ・地変が多かった(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
506 参考	昭和 19/12/7	1944/12/07	東南海地震 M=7.9			○静岡・愛知・三重などで合わせて死者・不明者1223人、全壊家屋17599戸、半壊36520戸、流失3129戸。このほか、長野県諏訪盆地でも全壊家屋12戸などの被害があった。津波が各地に襲来し、波高は熊野灘沿岸で6～8m、遠州灘沿岸で1～2m。紀伊半島東岸で30～40cm地盤が沈下した(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
509 参考	昭和 21/12/21	1946/12/21	中部以西日本各地 M=8.0		推定震度：摂津・播磨内陸部5弱～4 (『兵庫県地震災害史』)	南海大地震 ○被害は中部以西の日本各地にわたり、死者1330人、全壊家屋11591戸、半壊23487戸、流失1451戸、焼失2598戸。津波が静岡県より九州にいたる海岸に来襲し、高知・三重・徳島沿岸で4～6Mに達した。室戸・紀伊半島は南上がりの傾動を示し、室戸で1.27m、潮岬で0.7m上昇、須崎・甲浦で約1m沈下。高知付近で田園15平方kmが海面下に没した(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
528 参考	昭和 27/7/18	1949/12/26	畿内、吉野地震 M=6.8			○震源の深さ60km。和歌山・愛知・岐阜・石川各県にも小被害があった。死者9人、全壊家屋20戸。春日大社の石灯笼1600個のうち650個倒壊(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)

地震番号	和 暦	西暦	地震範囲 地震規模	『尼崎市史』13「年表」記載	「尼崎関係記事」要旨	摂津その他被害関係記事
546 参考	昭和 35/5/23	1960/05/23	チリ地震津 波 M=9.5			○23日の南米チリ沖地震に伴う津波が24日2時頃から日本各地に襲来、波高は三陸沿岸で5～6m、その他で3～4m。北海道南岸・三陸沿岸・志摩半島付近で被害が大きく、沖縄でも被害があった。日本全体で死者・不明者142人(うち沖縄で3人)、全壊家屋1500余戸、半壊2千余戸(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)
—	平成 7/1/17	1995/01/17	阪神・淡路 大地震 M=7.2		死者49人、負傷者7,145人、全壊家屋5,688棟・1万1,034世帯、半壊3万6,002棟・5万1,540世帯(『図説 尼崎の歴史』平成19年刊)	○活断層の活動によるいわゆる直下型地震。神戸、洲本で震度6だったが、現地調査により淡路島の一部から神戸市、芦屋、西宮市、宝塚市にかけて震度7の地域のあることが明らかになった。多くの木造家屋、コンクリートの建物のほか、高速道路、新幹線を含む鉄道線路なども倒壊した。 被害(平成14年12月28日現在)は死者6433人、不明者3人、負傷者4万人以上、全・半壊家屋24万戸以上、全・半焼家屋6千戸以上、など。早朝であったため、死者の多くは家屋の倒壊と火災によるもの(WEB版・内閣府防災情報ページ「過去の災害一覧」)